

田島 よし子

1	昭和十九年十一月	五日	十九年十二月	二十日	久米川	二部五年		
2	十九年十二月	二十一日	二十年	三月	八日	久米川	二部五年	
3	二十年	五月	十七日	二十年	九月	二十二日	福光	二部六年

疎開のことを思い出すと、それはそれはなつかしく、日記を読むとその当時のことが甦り、はっきりと眼に浮かんでくる。でも戦争はいつ終わるとも知れず、家族と離ればなれに暮らすことは、本当に悲しかった。考えてみれば、私達が戦争で集団疎開することとは、もう家族とは永遠の別れになるかも知れなかったし、一緒に生活していた方々とは、生死を共にしていたという意味において、ただの思い出とも思えない。

ただ、戦争という状況の中には、私達は大人へん幸せであったと、今更ながら有難く、それを支えて下さった方々に、心から感謝している。

昭和六十三年八月記す

井爪 よし子